

【令和4年度】指定管理者制度導入施設の管理運営状況総合評価シート

施設名	吹田市立高齢者いこいの家	所管部室課名	高齢福祉室
所在地	吹田市岸部中1-24-11	設置年月日	昭和63年1月22日

1 施設の概要

(1)設置目的	高齢者の健康増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を提供し、高齢者の相互交流と社会参加を促進するとともに、高齢者の自立支援を図り、もって高齢者の福祉の増進を図ること。		
(2)規模、開館日等	【設備等】 部屋：和室、洋室、多目的ホール 設備：カラオケ機器、マッサージ機、 囲碁・将棋、運動機器等	【開館日等】 開館日：月～土曜日午前9時～午後5時30分 休館日：日曜日、祝・休日、12月29日～1月3日	

2 指定管理者の概要

(1)指定管理者	労働者協同組合ワーカーズコープ・センター事業団 (R5.4.1に法人名変更、変更前は「特定非営利活動法人ワーカーズコープ」)					
(2)指定期間	令和2年4月1日～令和7年3月31日					
(3)選定方法	公募					
(4)指定管理者が行う業務内容	1 高齢者の健康増進、教養向上等のための場の提供、講座の実施。 2 高齢者の交流、社会参加の促進、高齢者の福祉増進に関する事業の実施。 3 施設の使用申請・許可。 4 施設の備品、設備等の管理。					
(5)指定管理者の収支			令和3年度		令和4年度	
			計画	実施結果	計画	実施結果
	収入	委託料 (円)	16,186,000	16,164,567	16,186,000	16,186,000
		自主事業 (円)	102,000	25,560	120,000	103,244
		合計 (円)	16,288,000	16,190,127	16,306,000	16,289,244
	支出	管理経費 (円)	16,186,000	16,109,228	16,186,000	16,186,000
		自主事業 (円)	102,000	49,828	120,000	56,465
合計 (円)		16,288,000	16,159,056	16,306,000	16,242,465	
収支差額 (円)		0	31,071	0	46,779	

3 施設の利用状況

利用状況を示す指標			令和3年度		令和4年度	
			計画	実施結果	計画	実施結果
1	利用者数	(人)	10,000	5,288	10,000	10,125
2	開所日数	(日)	293	191(※)	294	294
3	1日平均利用者数	(人)	34.1	27.7	34.0	34.4
4	主催講座	開催回数 (回)	142	104	72	63
5	共催事業	開催回数 (回)	2	6	14	9
6	自主事業	開催回数 (回)	3	1	42	122

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和3年度は約4か月休館した。

4 利用者ニーズの把握の状況

(1)把握方法	利用者アンケート、利用者登録用紙の概要欄、利用者との日頃の会話、利用者懇談会、目安箱で把握している。
(2)把握結果	おおむね満足との結果だった。特に職員の接遇、施設の清潔感に好感を示す声が多かった。アンケートでは満足・不満な点のほか、不安に思っていることや生活の中で困っていることを聞き取る項目を設けている。不安に思っていることは自分の「健康」、生活の中で困っていることは「仲間づくり」や「スマホ」が多数を占めていた。
(3)結果を受けての対応状況	不満な点、不安に思っていること、生活の中で困っていることから、現状のサービスの改善、新たな講座の開催等を行っていた。特に、「仲間づくり」に困っているという声に対し、同じ趣味を持つ人同士で長く活動できるよう、講座参加者がサークル活動を始めるサポートを行った。その結果、多くのサークルが誕生した。

5 管理運営状況に対する評価

項目	評価
(1)市民の平等な利用の確保	設置条例・施行規則等を遵守し、使用許可を行っている。 また、利用を許可してよいか迷う場合、すぐに市へ問い合わせがある。市との協議結果を踏まえ、申込み者に丁寧に対応している。
(2)施設の効用の発揮	日頃の会話、アンケート等でニーズを把握しており、講座の内容等に反映している。講座の参加者からは、「コロナで外出できない状況が続くうちに体を動かした」「今までやってなかったことを教えてもらってよかった」「心も身体もとても元気になる、意欲が湧いてくる」といった声があった。講座をきっかけに、高齢者の外出促進や生きがいづくり、教養の増進に繋がっている。
(3)管理を安定して行う人員、資産その他の経営規模及び能力	事業担当者を常時2～3名ほど配置し、利用者に対し綿密に対応できている。また、職員会議で次年度の事業計画や予算を協議する際、どのように予算を工面し、原価率を低く抑え、事業を多く展開できるかを念頭に置いている。
(4)施設の管理経費の縮減	裏紙やわら半紙の使用、FAXのデータ取り込み、節電(不必要な暖房の停止、カーテンで部屋を区切ることで冷暖房の運転効率を上げる、季節で冷蔵庫を使い分ける)等を実施。
(5)その他	人気の講座を定番としつつも、毎年度新たな講座を展開している。座学だけでなく、土いじりや運動、撮影モデル体験会といった体験型の講座もあり、バリエーションが豊富である。また、利用者の声を敏感に捉え、物品の調達、ボランティア意欲のある利用者の受入れ等、柔軟に対応している。 内部管理については、事故防止や個人情報保護のマニュアルを多数整備しており、あらゆる事由に備えられるようにしている。また、職員研修について、サービスに直接関わるもの(人権研修、介護予防推進員養成講座等)だけでなく、内部管理に関わるもの(予実講座等)も実施し、職員の教育に注力する姿勢が窺えた。
(6)総合評価	協定書等をおおむね遵守し、施設の管理運営を行っていた。管理面(業務日誌や規程等)、サービス面(利用者対応、講座展開)のいずれにおいても、綿密であり、職員の心配りが行き届いていた。 利用者数が昨年度の約2倍となっている点、利用者の満足度が高い点から、利用者のニーズを適切に把握し、相応しいサービスを提供できていると感じる。一方、自主事業のアンケートで「時間が不十分」という意見が寄せられていた。把握した意見を十分に検討いただき、改善に向け取り組まれたい。